

地域研修カリキュラム

※講師等との調整により、カリキュラムに若干の変更の可能性があります。

●：受講必須 ■：基礎的な内容
◇：受講任意 ■：応用的な内容も含む

オンデマンド講義
視聴時間約3.1時間
※受講必須のみの場合

概要	単元名			分
災害対応業務全般	1	防災行政概要	◇	20分
	2	災害法体系と災害対策基本法の概要	◇	15分
	3	災害救助法の概要	◇	15分
	4	防災計画の概要	◇	15分
	5	地域の災害特性	●	60分
応援・受援の基礎知識	6	受援体制と受援計画の概要	◇	15分
	7	応急活動・資源管理総論	◇	75分
	8	地方公共団体間の相互応援と受援体制	●	130分
救援物資の調達・輸配送	9	国としての物資の備蓄および災害時における物資の調達・輸送	●	15分
	10	救援物資の調達	●	35分
	11	救援物資の輸配送	●	30分
	12	救援物資ロジスティクス演習	●	30分
避難所運営業務の基礎知識	13	避難所の開設・運営の内容	◇	15分
	14	多様な主体による避難所運営	◇	15分
	15	災害時における男女共同参画の視点からの取組の概要	●	15分
応急対策	16	応急対策の実態	◇	60分

リアルタイム研修

時間	単元	分	講師	単元の概要
10:00 ～10:10	- (オリエンテーション)	10分	(事務局)	
10:10 ～10:40	1 【講義】国としての課題認識	30分	内閣府	国の視点による過去災害時の救援物資業務に関する課題や教訓を学ぶ。
10:40 ～11:10	2 【講演】事例から学ぶ救援物資の調達・輸配送の実態と課題(自治体の視点)	30分	久多見 長久 (熊本県)	自治体の視点による熊本地震時の救援物資業務の実態や課題、課題を踏まえた取り組みを学ぶ。
11:10 ～11:20	- (休憩)	10分		
11:20 ～11:50	3 【講演】事例から学ぶ救援物資の調達・輸配送の実態と課題(民間の視点)	30分	大塚 和典 (Bosai Tech)	民間の視点による過去災害時の救援物資業務の実態や課題、課題を踏まえた平時の取り組み、民間として県・市町村に求める役割を学ぶ。
11:50 ～12:50	- (昼休み)	60分		
12:50 ～14:50	4 【演習】救援物資の調達・輸配送演習	120分	内閣府	救援物資業務について、物資システムを使った情報連携と物資カードを使った物資の流れを体験し、救援物資業務における全体の流れを学ぶ。
14:50 ～15:00	- (休憩)	10分		
15:00 ～16:00	5 【演習】市町村の救援物資の調達・輸配送における課題の検討	60分	国崎 信江 (危機管理教育研究所)	熊本地震や能登半島地震をはじめとする近年の災害における市町村の救援物資業務の課題についてグループで検討・意見交換する。多様な視点を共有することで今後の業務に活かす。
16:00 ～16:05	- (休憩)	5分		
16:05 ～16:50	6 【演習】全体討論(ふりかえり)	45分	事務局	研修を通じて学び得たものを整理し、日頃からの「備え」につなげることを演習を通して学ぶ。
16:50 ～17:00	- (閉講)	10分	(事務局)	

コーディネーター
【プロフィール】 国崎 信江氏

(株) 危機管理教育研究所 代表

20年にわたり第一線で防災・防犯・事故防止対策を提唱している。行政、企業、マンションなどのリスクマネジメントコンサルを行い、省庁の検討・審査委員や自治体の防災アドバイザーなどを務めている。NHKラジオでは10年間マイあさラジオ「暮らしの危機管理」のコーナーで情報提供するほか、多くのメディアで被災地の支援活動時の経験や防災防犯普及啓発を発信している。防災・防犯の執筆・監修図書多数。